

生きる力の育成

平成23年度指定

## 生きる力を育てる「弁当づくり」の実践

～学校と家庭・地域社会が連携・協働する食育をめざして～

殿居小学校 PTA

### 1 学校地域の概要

PTA会長 山本博史  
学校長 竹内幹雄  
児童数 21名  
会員数 20名（家庭数14 教職員6）  
所在地 〒750-0401

山口県下関市豊田町大字殿居1040-1

TEL 083-768-0221

FAX 083-768-5427

E-mail [tonoi-shou@edu.city.shimonoseki.yamaguchi.jp](mailto:tonoi-shou@edu.city.shimonoseki.yamaguchi.jp)

H24.1.10 DVDにして下関の姉妹都市、宮古市に贈る



12.17「歌声を風にのせて」（シーモール公演）

被災地で復興に立ち上がっていらっしゃる方々に向けて

### (1) 学校の特徴

本校の位置する殿居地区は、下関市豊田町の西部に位置し、全校区面積90%近くは森林である。北方の長門市に接する辺りには、天井ヶ岳(691m)一位ヶ岳(671m)、南には、華山(713m) 狗留孫山(616m)に囲まれた、緑豊かな自然の中にある。

地形は南北に長い瓢箪形で、住家は狭い谷間に点在し、児童数は漸減傾向にある。本年度は全校児童21名、完全複式3学級という極小規模校である。



トマトの苗植え（1・2年）

子どもたちは、男女・学年を超えて仲がよく、協力し物事を進めていこうとする姿勢が身についている。少人数だが、児童会活動は盛んで、集会活動も高学年を中心に企画を進め、準備・運営は全校の子どもたちが一体となって楽しい集会となるように取り組んでいる。6年間の取組で、学び方が主体的になり、学習したことを日々の生活の中でも実践していこうとする姿が見られるようになった。

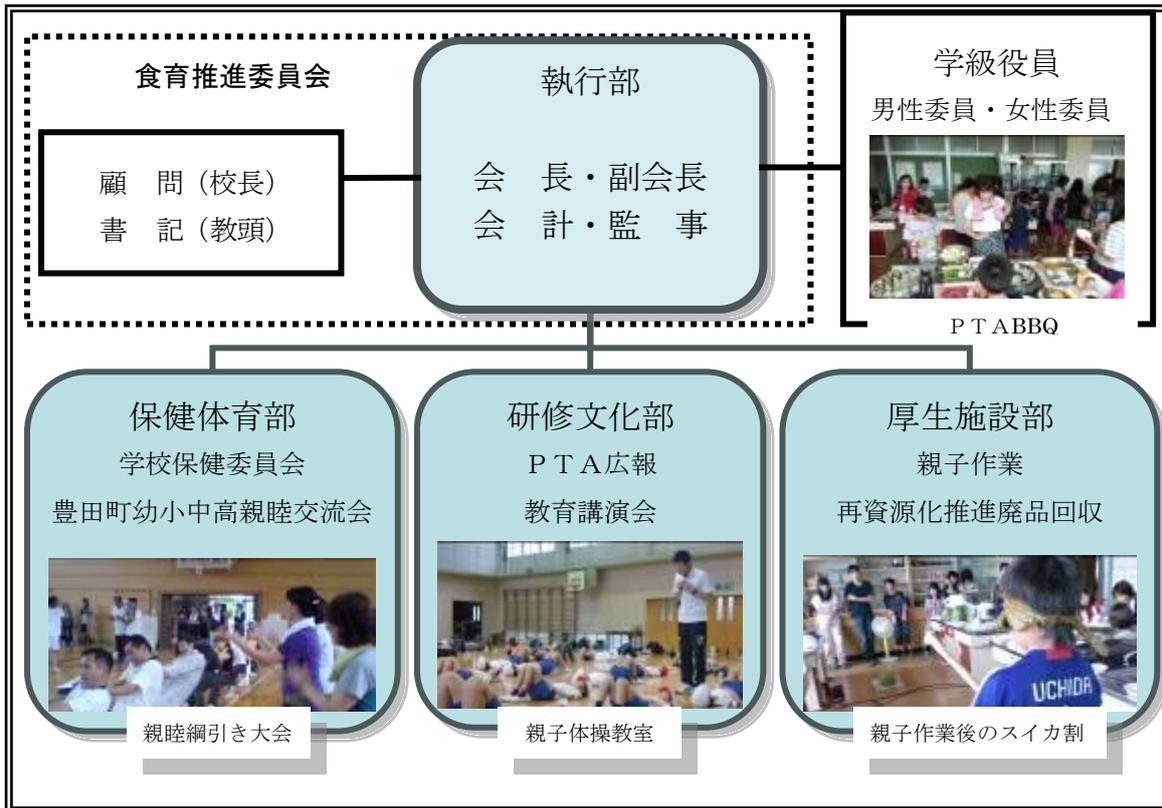
### (2) PTA活動の特徴

上記のような学校環境や児童の実態を踏まえて、殿居小PTAの役割と期待される成果は大きい。子どもと共に育つ「**共育**」、協働して育てる「**協育**」、故郷の中で育てる「**郷育**」を様々な行事を通して、実践している。殿居小PTAは、公民館、地区自治会、地区体育振興会、老人会、更生保護女性会、民生委員、主任児童委員等の地域自治組織とも密接不可分の関係を保ち、できるだけ連携して地域の活性化を図るよう努力している。地域の方々は、学校の教育に対して大変協力的であり、地域の教育力も充実している。殿居地区全体が一つの**ビッグファミリー**を形成している。このため、子どもたちの意識は、単に「自分たちは殿居小の子どもたち」というだけでなく「**殿居地区の子どもたち**」なのだという自覚が随所に見られる。このように、**殿居小PTAの最大の特徴は結束力の強さ**である。本年度は自分で作る**弁当作り**(**下関市教育委員会推進事業**)に力を入れた。



2 PTA組織の概要

(1) 組織図



(2) 平成24年度の主な活動

学級委員	男性委員	 学級PTA (箸づくり)	 学習発表会でのPTA発表 (歌とダンス)
	女性委員		
専門部	保健体育部	豊田町幼・小・中・高親睦交流会(綱引き大会)	
	研修文化部	学校保健委員会への参加推進 親子除草作業(夏季)	
	厚生施設部	秋季大運動会PTA競技企画・推進	
		PTA広報紙の発行(年2回)	
		教育講演会の企画・推進	
		交通指導(交通安全推進)	
		再資源化推進事業(廃品回収作業)	
		廃品回収の企画・推進	PTA除草作業(春季)

### 3 研究主題について

「生きる力を育てる食育と給食指導の充実」  
 ～学校と家庭・地域社会が連携・協働する食育をめざして～

#### (1) 主題設定の理由

子どもたちを取り巻く環境は、大きく変化し、自ら考え自ら切り開いていく「生きる力」が必要とされている。「生きる力」を育てるには、子どもの元気・努力と、明日の子どもの成長を信じ、今日を懸命に生きる親たちの元気も必要である。そして、子ども親も元気を出すには、温かい支援や声かけによる協働体制と、各家庭の食が大事である。そこで、家庭・地域・学校が協働しながら食への関心を高め、子どもたちの生活習慣の改善に向けた効果的な取組を定着させていくことを喫緊の課題として、取り組む意義は大きい。

#### (2) 仮説

- ① 様々な機会を工夫して、新たな食育の実践（**弁当作り**）を推し進めることで、児童・保護者の食への意識を高めることができるのではないだろうか。
- ② これまでの給食指導をさらに充実させることで、食への感謝の気持ちや食習慣に配慮した生活を送ることができるのではないだろうか。

#### (3) 研究方法

- 山口県PTA連合会から助成を受け、食への関心を高める。
- 「生き生き食育プロジェクト」を立ち上げ、PTA活動や学校給食を通して、家庭・地域・学校が、協働して幅広く食への実践を積み重ねていく。
- 児童・保護者アンケートを作成し、アンケート結果を食育に活用する。(研究物参照)
- 養護教諭による企画と給食委員会の実践を通して、給食運営の可能性を探る。

#### (4) 実践概要

生き生き食育プロジェクト		活 動 内 容
生きる力を育む食育	I	食に関する体験活動を推進するPTA活動の充実 ○ 夏休み親子奉仕作業後のPTAによるバーベキュー ○ <b>弁当給食★</b> 「秋を味わおう」自分の食べる量を ○ <b>ヘルスマイト給食★★</b> で「考えた弁当づくり」を ○ 公民館との連携、「歓迎遠足」等
	II	生活科・総合的な学習の時間を支援するPTA活動の充実 ○ JA 豊田西支所と連携し「豊田西殿居ちゃぐりんクラブ」として取り組んでいるイチゴのプランター栽培 ○ みのりの丘でのナン狩り体験と皮むき大会 ○ 交流給食、サクランボの収穫、おイモ集会 等
	III	学校給食の運営とその指導 ○ 給食委員会の活動の充実 ○ 学校栄養士さんと連携した給食指導 ○ PTA全員参加による給食試食会 等



★、★★は下関市教育委員会推進「弁当づくり」関連の新規事業



4 実践内容

I 食に関する体験活動を推進するPTA活動の充実

	活動内容・協働関係	活動の様子
1	PTAバーベキュー 夏休み親子奉仕作業後の PTAによるバーベキュー (雨天のため室内BBQ)	<p>お母さんと野菜を切る 「おいしいね」 「野菜も食べるよ」</p>
2	歓迎遠足 公民館活動とPTAの連 携による歓迎遠足 (河村館長さん宅で実 施)	<p>パン作り 豊田牛焼き奉行参上 究極の食べ比べ</p>
3	梅ジュース 豊田中小学校からいた ただ梅でジュースを作 り、みんなで試飲。水泳 や運動会の練習後に飲 むとおいしい。	<p>説明「梅ジュースの作り方」 「どれどれどんな味？」 「体によさそう」</p>
4	<b>弁当給食*</b> 「秋を味わおう」 学習発表会の後は、豊田 地区食生活改善推進委 員」さんとの連携による 弁当給食	<p>「おいしく食べてね」 これを食べて山口県学校合唱コンクールへいざ</p>

**ヘルスマイト給食\*\***豊田地区食推」さんとの連携)

「手作り弁当は最高」

「おいしそうでしょ」

豪華版昼ご飯



Ⅱ 生活科・総合的な学習の時間、その他を支援するPTA活動の充実

	場の設定	活動内容・協働関係
1	1・2年生活科 3～6年 総合 サクランボの収穫	<p>学校林のサクランボの収穫をした。</p>    
2	3・4年 総合 おイモ集会	   
3	1・2年生活科 3～6年 総合 ナシ狩り「みのりの丘」との連携	  <p>全校児童が、下関市豊田町農業公園「みのりの丘」へ行き、ナシ狩り体験をした。ナシ農家の方に指導してもらうことによって、自分たちの郷土を誇りにし、自信をもたせる。</p>
4	1・2年生活科 3～6年 総合 イチゴづくり	<p>食農教育 JA 下関農業協同組合豊田西支所と連携し、「豊田西殿居ちゃぐりんクラブ」として取り組んでいる。(営農指導員さんの指導)</p>   
5	1・2年生活科 3～6年 総合 ナシ皮むき大会	   
6	特別活動 給食交流会	   

### Ⅲ 学校給食の運営とその指導

本校は、平成元年に、学校給食の運営とその指導が、適切であって優れた成果をあげたことに対して、文部大臣表彰をさせていただいている。この20年間の軌跡を振り返ると、先人の取組を伝統として受け継ぎ、このように落ち着いた学校給食があるのか、と初めて見学した人を驚嘆させるほど、質の高い給食である。より確かなものに発展すべく、本年度殿居小学校給食の良さをPTAも参加しながら、さらに進化させている。

1	給食準備①  給食準備②	学校給食の運営とその指導 	<p><b>(食前の言葉)</b></p> <p>自然の恩恵と多くの 人々のおかげにより、 この食を与えられました。 よくかんで残さず いただきます。</p>
2	給食委員会の 活動と、場の 有効利用		
3	ランチルー ムを活かし た食育指導	食育の生活化① 食育の生活化② よい歯の表彰 	
4	給食感謝週間 (栄養士さんと校務技士さんに感謝)		
5	給食試食会 (PTA 全 員参加)		給食試食会は全員が参加
6	給食センター 栄養士さん訪 問 (給食センター、 栄養士さんとの連携)		給食センターの栄養士さんによる 

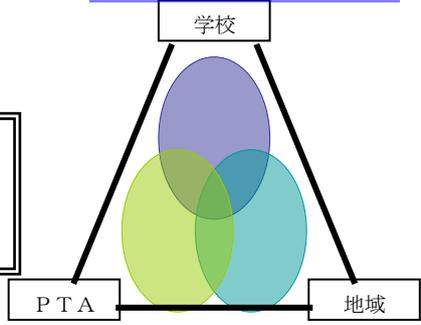
学校給食を通して、食事の役割の理解、食への感謝の態度形成、栄養・調理の一層の充実を図る活動を実践することが、「食への関心」をさらに高めている。

連携・協働体制でPTAが地域と共に学校を支える関係

5 成果と課題

(1) 成果と検証 (研究物参照)

検証①会員の声 「PTA活動が楽しい」「次が楽しみ」等。  
 検証②学校評価 学校とPTAの連携強化のポイントが上昇。  
 検証③振り返り 「感動をありがとう」等。広報『ふれあい』



(2) 課題と改善

課 題	改善のための方向性
人的物的 地域素材 の見直し	<p>殿居小PTAは、学校・地域と連携・協働して、生き生き食育プロジェクトを推進してきた。実践を積み重ねていく中で、食への関心を高めた。食への関心を高めるために、PTA会員同士や先生方との関わり、地域や関係機関とのつながりが、最も重要であることが分かった。また、「<b>食への関心</b>」は、「<b>人への関心</b>」であり、「<b>地域への関心</b>」であることが分かった。これからが始まりである。子どものために、また、地域の活性化のために、とことんやる気概がPTAには必要である。<u>PTA活動そのものの活性化を図っていくことが、子どもの元気になり地域の元気になる。</u></p> <p>方向性① 様々な人的物的地域素材を大事にし、新たな素材を発掘していく努力をしていく。                  方向性② 公式・非公式にPTA・地域でお互いに声を掛け合う。                  方向性③ 心底PTA会員が楽しむ。このことが、子どもが地域を誇りにする動機付けとなる。</p>

『ビッグファミリー 殿居』

下関市立殿居小学校PTA会長 山本博史

殿居小学校には、一丸となってPTAと共に子どもたちの教育に打ち込んでいる先生方の姿がある。おかげさまで、行事がある度に子どもへのきめ細かな指導と達成感いっぱいの子どもの笑顔に感動し、子どもが着実に成長している実感を味わっている。この度、県Pから助成を受け、食育に係る活動を深化発展させることができた。山口県PTA連合会に厚くお礼申し上げたい。これからも、この度の助成を契機に、PTA会員が一つになって、家庭や学校での食育の充実を推進していきたい。また、食育を中心に、地域と一緒に学校を盛り上げ、『ビッグファミリー 殿居』をさらに大切にする活動を工夫していきたい。

養護教諭で給食担当の吉次先生と給食委員会、給食準備をしてくださる校務技士の山本先生には、様々な趣向を凝らした学校給食の運営と指導を、また殿居公民館長河村様、殿居地区自治会連合会長田中様、老人クラブ寿会加藤様内海様には、子どもたちが積極的に食に関わろうとする催しを工夫していただいている。連携協働するPTAとして、さらに「横のつながり」を深めていきたい。

最後に、PTA事務局神杉教頭先生の多方面にわたる細かな配慮に感謝したい。

以上の研究概要からお分かりいただけると思うが、殿居小PTAの絆の強さを地域へ広げ、学校力の増強をめざし、本年は、とりわけ食育の推進の観点から、PTA活動や学校給食を通して、食への関心、食習慣への関心、食生活への関心が高まった。また、生きている喜びを分かち合い感動を共にするPTAをめざして今後も励むため、ご意見を請いたい。

(文責 副会長 中尾慎一・眞柴明子)